

財団からのご挨拶

並河靖之(1845～1927年)は、明治・大正期に活躍し、帝室技芸員となった七宝家です。

当財団は、靖之の孫・靖と曾孫・正晃が、2003年(平成15)4月に設立し、「並河七宝」の《工場》と《店》からなる旧並河邸を保存活用し、靖之の偉業と近代七宝業の遺構を将来に伝える展示公開施設を開館しました。

当初は、「ナミカワヤスユキ」の名前どころか、「シッポウ」さえも、まだまだ知られざる存在で、開館と同時に七宝などの館藏品より先に、建造物や庭園が文化財となり、「七宝」以外の多方面からもご興味をお向けいただきました。

2008年(平成20)には、国登録有形文化財「工第2号 並河靖之七宝資料 千六百六十二点」(七宝、下画、道具類)となり、当館は建造物、庭園、館藏品の全てに文化財価値を有する民間では希少な場所となりました。

2015年(平成27)には当館を含む界隈が国重要文化的景観「京都岡崎の文化的景観」に選定され、人々の暮らしや生業など地域の風土により形成された文化性が高く評価されています。

主屋は1893年(明治26)4月上棟、翌年11月竣工し、並河家の常からの住まい、靖之と職工たちが仕事をする場、来客をもてなす場として、数十年毎の修理を重ねて、2022年(令和4)、財団により、さらなる歳月を未来へと繋ぐため文化財としての本格的な保存修理事業を行い、2023年(令和5)4月にリニューアル開館しました。

かつて、靖之の娘(養女)・徳子は、父の三十七回忌に「春風秋雨、いま私共の一家一族が恙なき日を暮らし得る喜びは、一重に此父の賜に外ならぬ」と、手記『父を語る』に綴っております。当財団も記念館を末永く継承していくことこそが、なによりもの使命と励んでまいります。

本日ご来館の皆様には是非とも「並河七宝を語りつぐ」お一人になっていただき、ご支援賜りますれば、実に心強く、嬉しく、幸いです。

公益財団法人 並河靖之有線七宝記念財団 理事長
並河靖之七宝記念館 館長
並河 英津子